

第8回山陰の民話とわらべ歌オンライン講座終わる

酒井 董美^{ただよし}

5月7日を初回として始めた第8回山陰の民話とわらべ歌オンライン講座も、この写真のように、9月10日の10回目の講義を最後に修了した。内容的には10回であるが、筆者の都合で5回分と6回分はまとめて実施した。このときだけは倍の時間をかけて行ったのであった。基本的には1回1時間であり、朝9時30分から10時30分までということになっている。

受講の登録者数は全員で29名であるが、出席状態を眺めてみると次のようになっていた。

欠席なしの、8回全部とも出席したのは1名だった。1回欠席で7回出席した方は4名、2回欠席で6回出席した方は6名、3回欠席で5回出席した方は3名、4回欠席して4回出席の方、つまり、半分出席した方が7名である。ここまでで21名となるので約72パーセントの方が、半分以上出席したことになる。これより少ないところでは、3回出席した方が2名、2回出席が5名、1回だけ出席したのは1名となっていた。

この講座は、事前に受講予定者には1000円の受講料を事前にゆうちょ銀行の筆者の口座に振り込んだ方が、受講できるようにしている。つまり、受講料が1時間100円ということになる。講座を行う筆者として考えたことは、やはり真剣に講座に向き合ってもらうためには、どうすればよいかなった。本当は無料であってもよいのではあるが、中途半端で、いい加減な気持ちで受講してもらいたくはなかった。熟慮の結果、こういう方法を取ったのである。しかし、人にはいろいろな事情があり、講義を受けられない事情の生じることもあるだろうから、講義内容は録画して、料金を前納している受講予定者には、出席、欠席を問わず、録画資料は全員に、メールに添付して、送るように配慮したのである。これは東京の平沼美春さんのご協力で行えた。

講義そのものについて述べておけば、テキストは事前にメールで受講者に送っており、それには民話、わらべ歌ともにその資料のQRコードを付けているので、事前、事後、いつでもスマホで開いて、伝承者の語りや歌声を。聴くことが出来るようになっていた。

講座は無事修了したが、成果はどうであった。それとなく気になる筆者なのである。

